



広報

なま 市民の友

第633号 毎月1回発行
2003年(平成15年)
10月

市の人口と世帯	
* ()内はうち外国人 2003(平成15)年8月末現在	
総人口	309,560(1,893)
男	149,772(954)
女	159,788(939)
世帯数	121,970(1,121)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本 庁	88,259
真和志	105,621
首 里	58,687
小 緑	55,100

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111 ●印刷(協)丸正印刷



子、孫、ひ孫と共に長寿つむぐ

100歳以上128名の
よみび祝う

市は今年で市制施行82周年となり、トゥシビー(85歳)まであと3年というところですが、トゥシビーもトーカチ(87歳)もカジマヤ(97歳)も越えて、100歳となった市民が、9月1日現在、49名(女性43名、男性6名)、101歳以上が79名(女性68名、男性11名)もいます。

9月15日の「敬老の日」、市では高齢者慶弔式典を行い、100歳以上の高齢者や家族を招いて、長寿を祝い、記念品を贈呈しました。昭和19年の十・十空襲、昭和20年の終戦は、100歳以上の高齢者が40代、50代の頃で、戦後、家を守り、市民生活をリードして、市の復興を支えてきました。

「長寿の秘訣は？」の問いかけに「好き嫌いなく食べる」、「くよくよしない」、そして「趣味をもつ」と返答。市内の老人保健センター(小緑、壺川、末吉、識名)や老人憩いの家(金城、辻、安謝)では60歳以上の方々が三線、社交ダンス、大正琴、琉舞、囲碁などの趣味をとおして元気に交流。なかには、98歳という高齢の方も見受けられ、各々の方が老後を楽しみ、生きるパワーを培っています。

「敬老の日」には慶祝訪問も行われ、市長らが新100歳となつたお二人の自宅を訪れ、額状と記念品を手渡しました。おじいさん、おばあさんを囲む、子、孫、ひ孫たちの笑顔。まわりの家族が長寿をつむぐ後押しとなっていました。

紙面

- (2面) 市を挙げて省エネなど実践へ
- (3面) 広報なは市民特派員レポート
- (4面・5面) 「市町村合併」への思いを市長に聴く
- (6面) 市職員の給与・職員数のあまし
- (7面) 情報PACK

市長談 TAIDAN ⑦



船越 義彰 (作家)

1925年那覇市生まれ。著作に「きむなあ物語」「遊女たちの戦争」「戦争・辻・若者たち」など、その他小説・詩・論文を多数発表。沖縄タイムス芸術選賞大賞('81年)山之口稜賞('82年)など受賞。

翁長雄志市長 1944年の10月、那覇にとつて忘れられない十・十空襲がありました。

その空襲によってまちは、一日で壊滅的な状況に陥りました。空襲前の那覇をよく知ってらっしゃる先生には、どのような街並みが記憶に残っていますか。

船越義彰さん 石門の街角、大門前(ウフジョーメ)の大通り、通堂(トウドウ)、そこにふさわしい表情がありました。

長い歴史のなかでそこに住んだ人たちの心が染み込んでいる風情あるまちでしたね。

市長 空襲を体験された当時、先生は19歳という多感な時期であったとお伺いしていますが。

生まれ育つ「まち」の表情

船越 その頃、チーシバル(辻原辻2丁目)のすそに住んでいて、周辺には墓が多く、壕として隠れることができました。真っ黒のグラマン第2次世界大戦の米海軍主力戦闘機が編隊を成してやってきました。昼近く11時半頃ですよ。燃え上がる家も電柱も木もおのおのの声で泣いていましたね。不思議ですが、全く恐怖といたった感覚はなかったです。今、平和の世と比べてはじめて恐かったと感じます。

市長 私たちには想像を絶するような光景であったようですね。そのあと戦争は終結を迎え、那覇は何もない瓦礫の中から急速に、再建していきました。そして首里、小緑、真和志、と合併して大きくなりました。船越 那覇には多くの市町村から移り住みました。だから、合併は自然なことで、受け入れられたのだと思います。古典芸能や古酒も新陳代謝をするから伝統というものも生まれるのです。

市長 新しい発想でまちづくりを行うことも平和であるからこそできるものですね。



本紙は「カラーバリアフリー(色覚障壁の除去)」につとめています。お気づきの点がありましたらお寄せください。(秘書広報課 ☎862-9942)